

はばたき

橋北小学校
学校だより
No.47
H31.3.12

来週は、いよいよ卒業式です。そして、卒業式が終わった5日後には修了式です。

さて、昨日3月11日は、今から8年前、甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生した日です。この震災では、多くの方々が、家族をはじめとして、大切な人に「さよなら」も言えずに亡くなりました。残された人々は、亡くなった方々の思いを今でも聞き取ろうとしています。この震災で避難生活を余儀なくされた方々は、47万人もいましたが、依然として5万2千人が避難生活を強いられています。学校では半旗をあげて、黙とうを行いました。・・・先週は、5年生が最後の防災学習に取り組みました。

◆5年生防災学習 ー防災土鍋訓練ー

3月5日(火)は、5年生の防災学習に、NPO法人みえ減災啓発支援ネットワークの方々、橋北地区の第3市民防災組織の方をはじめとする地域の方々、あわせて10人の方々がお越しくださいました。

学習内容は、メインの防災土鍋体験や、地震についてなどの学習です。防災土鍋体験は、もし、地震が起こったとき、ライフラインが使えなくなっても大丈夫のように、地場産業である萬古焼の土鍋を利用して、ご飯の炊き方を教わりました。水5に対して米4の割合でおいしく炊け、どんな場合でも、この割合を覚えておくと役に立つことがわかりました。上手に炊けたご飯は、おにぎりにして食べました。あらかじめ、紙のお皿にサランラップを敷いておくと、お皿が汚れないためやおにぎりにして食べやすいということも学習しまし



た。ラップは、止血に使ったり、お腹などに巻いたりして寒さ対策もできます。

また、ご飯を炊く訓練だけでなく、映像でも地震への備えの大切さを学びました。学校にもある緊急地震速報は、いつ起こるかわからない地震に対して、少しでも自分の命を守るために大きく役立っていることもわかりました。

今回の学習では、なんのためにこの勉強をしているのか、何のためにこれを使うのかなどを考えることが大事であると、子どもたちが学習をしていくうえで、大切な視点も教えていただきました。家に帰ったら、今回学習したことをお家の人と話したり、実際にやってみたりすることが大事だということを確認しましたので、ご家庭のほうでも、どのようなことを学習したのかお子さんとお話いただけるとありがたいです。

いつ起こるかわからないのが地震です。だからこそ、いつ起きてもあわてないように準備をすることが大切で、地域でも学校でも取り組みを進めています。しかし、一番大切な防災対策は、まず、家族で防災会議を持つことだと考えます。

◆6年生 謝恩会(お別れ給食会) 3月6日

6年生を送る会で、お世話になりましたと、感謝の気持ちを下級生からいっぱいもらった6年生でしたが、3月6日は、6年生が謝恩会(お別れ給食会)で職員を感謝の気持ちでもてなしてくれました。調理員さんや主事さん、用務員さんと初めて一緒に給食を食べる日でもあります。メニューはお祝い用で、エビフライや豚かつ(どちらかを選択)、炒り煮、すまし汁などに加え、フルーツやデザート(3つから選択)、ジュース(りんごかぶどう)もつく特別献立です。机の上のランチョンマットは、6年生の手作りでした。



各テーブルで思い思いの話をしながらおいしい給食をいただき、いよいよ6年生の出し物へ。個人やグループでバレエに太鼓の演奏、K-POPダンス。6年生の新たな一面が見られて感心しました。先生も舞台に上げられて、一緒に踊るなど大いに楽しみました。最後は、6年生全員による劇

「子豚のシンデレラ」でした。時間のない中、ギリギリまで練習したとのこと。自分たちだけでよく頑張りました。

締めくくりは、6年生から感謝状をもらい、花吹雪とアーチで送られました。6年生の感謝の気持ちがいっぱいの温かい謝恩会でした。「卒業しても、僕たちのことを見守っててください」という言葉を聞いて、胸が熱くなりました。ずっと応援しています。



◆人権の花運動で表彰をいただきました！

今年度、本校は、「人権の花運動」に取り組んでまいりました。その結果、校庭の花壇やプランターにはほぼ年中、色とりどりの花が咲いていました。

取り組みの中心になって活動していたのは、前期も後期も代表委員会と環境委員会でしたが、全校でも人権の花運動にふさわしい標語を考えるなど、協力して取り組んできました。

人権の花運動も終わるということで、取り組みの最初に指定書を交付していただいた津地方法務局四日市支局長の藤村さんをはじめ、1年生から4年生の人権学習でお世話になった上野さん(四日市人権擁護委員協議会長)、他3名の関係者の方々にお越しいただきました。そして、藤村さんから後期代表委員会である6年生の小林さんが代表として感謝状を受け取りました。

3月8日



これからも花がいっぱい咲く学校、そして、子どもたちの笑顔の花がいっぱいの学校にしていきたいと思えます。